

平成21年度高等学校入学者選抜審議会  
第2回県立高等学校入学者選抜の在り方検討小委員会  
開催要項

宮城県教育委員会

1 日 時 平成21年6月15日(月) 午前10時から正午まで

2 会 場 県庁10階 1001会議室

3 次 第

(1) 開 会

(2) 議 事

- イ 第1回小委員会の審議内容の確認について
- ロ 意見聴取会の意見整理について
- ハ 具体的な改善案について
- ニ 答申素案(たたき台)について
- ホ その他

(3) あいさつ

(4) 閉 会

平成 2 1 年度入学者選抜審議会  
第 2 回県立高等学校入学者選抜の在り方検討小委員会  
名簿

(小委員会)

	委嘱・任命	氏 名	現 職	備 考
1	委 嘱	菅野 仁	宮城教育大学教育学部教授	
2	委 嘱	小平 英俊	宮城県 P T A 連合会副会長	
3	委 嘱	鹿野 良子	仙台市立加茂中学校長	
4	任 命	齋藤 公子	宮城県教育研修センター所長	
5	委 嘱	榎木 喜一	気仙沼市教育委員会学校教育課長	
6	委 嘱	木島美智子	東松島市立野蒜小学校長	
7	任 命	門脇 卓	宮城県小牛田農林高等学校教頭	
8	任 命	小畑 研二	仙台教育事務所次長	欠席

1 ~ 4 審議会委員 5 ~ 8 専門委員

(教育庁)

教育企画室	教育改革班室長補佐兼企画員	海原 孝
義務教育課	指導班副参事	及川 英之
	” 課長補佐	加藤 高政
高校教育課	課長	高橋 仁
	副参事兼課長補佐	村上 靖
	教育指導班課長補佐	高橋 義典
	教育指導班主幹	河本 和文
	” 主幹	吉野 隆
	” 主幹	青山 勝
	” 主幹	岡 達三
	” 主幹	佐々木克敬
	” 主幹	佐藤 芳枝
	キャリア教育班主任主査	佐々木武弘

平成21年度高等学校入学者選抜審議会  
第2回県立高等学校入学者選抜の在り方検討小委員会

資料

目 次

1 第1回小委員会の審議内容	..... P 1
2 今後の県立高等学校入学者選抜の在り方に関する意見聴取会について	
（1）意見聴取会の実施概要	..... P 3
（2）意見聴取会の意見整理	..... P 4
（3）意見聴取会における意見発表内容のまとめ	..... P 8
（4）意見聴取会での傍聴者からの主な意見要旨のまとめ	..... P 16

## 1 第1回小委員会の審議内容

(平成21年5月26日 午後2時～午後4時 於1204会議室)

意見聴取会の意見整理について

### ・意見整理についての事務局提案の検討

議論のまとめ

形式については概ねよい。

内容に関して、

「志願の動機については、選抜資料とすることに関して否定的な意見が多い」  
下線部を挿入する。

募集定員の割合が小さい選抜の際の「高倍率化と大量不合格者の懸念」に関する意見が多いのでその観点を「イ 推薦入試」に追加する。

「オ 調査書」について、「評定の客観性、公平性をより高めるよう工夫する」

「㊸評定の割合等の改善を求める」という観点を追加する。

今後の入試改善検討の視点と方向性について

### ・現行の推薦制度の廃止を前提として検討することについて

<主な意見>

中学校長による推薦には公平性確保の観点から、普通科、専門学科を問わず推薦入試を廃止した方がよいのではないかと。

議論のまとめ

普通科、専門学科を問わず推薦入試を廃止し、改善試案のB案を検討の対象外とする。

### ・POINT (特色化選抜を行うとした場合の出願要件の示し方)についての検討

<主な意見>

各学校の特色ある学校づくりの「特色」と出願要件でいう「特色」とは別に扱う必要があると思う。各学校の特色は抽象的であってもよく学校が生徒に対して保障するものであり、出願要件はあくまでも選抜の材料として使うものであると考えている。

各学校の特色ある学校づくりに関する特色は、受検案内としてまとめてみてはどうか。

出願に必要な要件として、更に踏み込んで具体的に示してもよいと思う。

特色化選抜の「特色」は分かりづらい用語であり、用語を工夫した方がよい。

「前期選抜」という名称でよいのではないかと。

具体的な出願要件にすればするほど出願に制限がかかり、受検機会の公平性に問題があるかもしれない。

抽象的に示すよりは、出願要件は明確に示した方がよい。中学生は出願要件を目標として捉えそれに向かい努力していくと良い。

高倍率化すると受検をあきらめる生徒も出てくるのではないかと。議論する中でよりベターな制度を作りたい。

出願要件を抽象化するとD案に近いものになる。

出願要件を具体的なものにしても不合格になる生徒はいるので、中学校ではフォローする必要がある。一回やれば定着していく。

大量不合格が生まれないようにすることが親切なのではないか。文言の解釈で出

願の幅は広がるはずである。

高倍率は事務作業も大変になることにつながる。出願要件は具体的なものがよいと考える。

#### 議論のまとめ

高倍率にならないように、出願要件を具体的に示すことで了承。

選抜の名称としての「特色」という用語は今後の検討課題とする。

### ・POINT（複数の受検機会の確保、前期選抜・後期選抜の選抜内容と募集定員割合、選抜日程）についての検討

#### <主な意見>

3回の受検機会を確保するべきだと考える。

D案やD案に第二次募集を加えた日程は、卒業式との関係もあり、実施は難しいと考える。

D案もシンプルでよいと考えていたが、前期選抜を40%程度に減らして、中学生に自己責任で高校を選択させてもよいのではないか。

前期選抜の割合を1～2割程度にしぼることにメリットがあり、後期中心でよいと思う。

学力向上という観点からも後期中心がよいと思う

選抜日程を考えると、前期選抜の募集割合を小さくした上で、後期中心がよいと思う。

後期中心として、多くの生徒に5教科の学力検査を受検させたい。

全県一学区になることも踏まえて、地域による違いを考慮して入試改善を検討していきたい。

#### 議論のまとめ

3回の受検機会を確保する。

後期選抜の募集定員の割合を過半数以上とする後期中心型とし、試案のA案あるいはC案をベースに今後の検討を進める。

割合の大小や学力検査の実施形態の違いによるメリット、デメリットを踏まえた、具体の選抜の中身について次回検討する。

### ・POINT（志願理由書の扱い）についての検討

#### 議論のまとめ

志望の動機については選抜の資料とはしない。

### 答申素案の方向性と盛り込むべき内容について

#### ・方向性と内容についての事務局提案の検討

##### 議論のまとめ

項立ては「中間まとめ」を基本として、改善の方向性をより明確に記述し、改善案は一つ示す。

### 今後のスケジュールについて

#### ・今後のスケジュールについての事務局提案の検討

##### 議論のまとめ

事務局案で基本的によい。

## 2 今後の県立高等学校入学者選抜の在り方に関する意見聴取会について

### (1) 意見聴取会の実施概要

#### 目的

高等学校及び中学校における教育の目的の実現及び健全な教育の推進を期し、より公正かつ適正な選抜を実現するため、「今後の県立高等学校入学者選抜の在り方について(中間まとめ)」に対する意見を広く県民から聴き、入学者選抜審議会における最終答申を検討する際の参考にする。

#### 地区毎の開催結果

地区	開催日時	会場	意見発表者	出席者数 (傍聴者を含む)
仙台	平成21年 3月15日 13:30～15:30	県庁舎 講堂	多賀城高等学校長 武田 和夫 氏 仙台市立岩切中学校長 菊池 義廣 氏 塩竈市立第一中学校 PTA事務次長 三浦 利政 氏 仙台市学校支援地域本部 スーパーバイザー 山川 由紀子 氏 仙台商工会議所 議員 山口 哲男 氏	約 60 人
石巻	平成21年 4月19日 13:30～15:30	石巻合同 庁舎 5階大会 議室	石巻工業高等学校長 渡邊 幸雄 氏 石巻市立住吉中学校 教諭 黒沼 俊郎 氏 登米市立佐沼中学校 PTA会長 加藤 義憲 氏 石巻市PTA協議会 事務次長 田村 百合子 氏 大幸工業株式会社 代表取締役 廣中 孝彦 氏	約 45 人
南三陸	平成21年 4月26日 13:30～15:30	南三陸合 同庁舎 3階大会 議室	本吉響高等学校長 高橋 郁夫 氏 南三陸町立志津川中学校 教諭 小野寺 幸博 氏 気仙沼市立面瀬中学校 PTA会長 小野寺 清江 氏 本吉町スポーツ少年団指導者協議会 会長 菅原 英俊 氏 NPO法人大島大好き 代表 白幡 昇一 氏	約 40 人
大崎	平成21年 5月10日 13:30～15:30	大崎合同 庁舎 1階大会 議室	栗原市立金成中学校長 高橋 憲夫 氏 宮城県古川高等学校 教諭 加賀谷 亮 氏 大崎市PTA連絡協議会長 峯岸 賢一 氏 地域若者サポートステーションみやぎ北若者サポ ートステーション 所長 馬場 義竜 氏 農業経営者 石川 和彦 氏	約 60 人
大河原	平成21年 5月17日 13:30～15:30	大河原合 同庁舎 別館2階 第二会議 室	柴田町立船岡中学校長 伊藤 誠 氏 宮城県角田高等学校 教諭 大坪 泰久 氏 大河原町立大河原中学校 PTA会長 佐藤 圭一 氏 宮城県社会教育協会大河原支部長 高橋 久 氏 白石市子供会育成会連合会長 徳力 弘正 氏	約 50 人

( 2 ) 意見聴取会の意見整理

「中間まとめ」の改善の方向性	主な賛成意見	主な反対意見
<p><b>ア 受検機会について</b></p> <p><b>複数（3回）の受検機会を望む意見が多い</b></p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 複数の受検機会を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験当日の体調不良という事例もあり、複数の受験機会を確保することはよい。</li> <li>・ 現行の受検機会3回の維持が望ましい。</li> <li>・ 現行の3回から2回に減じることは理解が得られない。</li> <li>・ 積極的にチャレンジできる。</li> <li>・ 前期と後期との間隔は1ヶ月あった方がよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校の事務の簡素化にも配慮を。</li> </ul>
<p><b>イ 推薦入試について</b></p> <p><b>推薦入試の廃止を望む意見が多い</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出願基準の明確化と情報提供の充実を望む観点から</li> <li>・ 学力向上を求める観点から</li> </ul> <p><b>特定校の高倍率と大量不合格者につながらない入試制度の工夫を望む意見が多い</b></p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受験生の能力等を多面的に評価するという趣旨を生かしつつ、中学校長の推薦などの出願資格や選抜に関して改善を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 推薦制度を改善するという方向性はよい。</li> <li>・ 不合格者が多くいることについても課題がある。</li> <li>・ 推薦入試が中学校での選抜であることに課題がある。</li> <li>・ 保護者・生徒間の人間関係の摩擦にも課題がある。</li> <li>・ 推薦入試の導入時の主旨と現在でずれがある。</li> <li>・ 普通科においては、推薦入試導入自体が疑問。</li> <li>・ 学力検査が課さない点が問題。</li> <li>・ 高校が示している基準が抽象的であり、中学校の選考でも具体的ににならない。</li> <li>・ 面接、作文の対策が大変。</li> <li>・ 合格が一つのゴールとなり、弊害が多い。</li> <li>・ 合格後の指導の難しさ。早期合格後の手立てが必要である。</li> <li>・ とりあえず推薦入試に出してみようという風潮がある。</li> <li>・ 受検機会が実質1回となっていることが問題。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「多様化」とはどのような意味で用いているのか。</li> <li>・ 専門学科においては推薦入試があってもよい。</li> <li>・ 専門学科において目的意識を持っている生徒が学力がないということによって不合格となるのは残念。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 募集定員の割合を現行よりも下げ、その範囲内で各高校が適切に定めることを検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前期選抜は15%を上回らないようにしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前期選抜は推薦入試を残して全ての学校で30%以内とするのがよい。</li> <li>・ 割合を下げると高倍率化につながるのではないか。</li> </ul>

「中間まとめ」の改善の方向性	主な賛成意見	主な反対意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>各高校・学科ごとに、求める生徒像や出願要件、評価項目や配点などの選抜方法について、可能な範囲であらかじめ公表することを検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>推薦基準が明確でないので、明確に示す必要がある。</li> <li>入試についての情報が不足しており、積極的に情報を提供する必要がある。</li> <li>特に成績面の基準が具体的でないのが課題である。</li> <li>中学校でも明確でないので、保護者にうまく伝わっていないことも課題である。</li> <li>部活動の戦績、取得資格、評定平均値等、具体的に示す必要。</li> <li>地域の人々にも浸透させる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>明確な出願基準は受検機会を狭めるだけでないか。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>選抜方法として、面接・作文のほか学力検査等を加えることも検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>推薦入試では、学力の低い生徒も合格している現状がある。</li> <li>面接だけでは受検生のことを理解するのは難しい。</li> <li>推薦入試後の学習意欲の低下に課題がある。</li> <li>学区内の校長のアンケートでは前期選抜でも学力検査を課したいという意見が多かった。</li> <li>学力検査は課した方がよい。</li> <li>面接の評価基準は明確に示した方がよい。</li> <li>学力検査問題は県教委で作題するが、独自問題も可能とする。</li> <li>3教科でなく、5教科各40分ということも考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前期選抜において、面接、作文は必要ない。後期試験では学力検査に加えて必要。</li> </ul>

## ウ 一般入試について

**学校裁量幅の拡大を求める意見がある一方で、シンプルさを求める意見もある。**  
**志望の動機については、選抜資料とすることにに関して否定的な意見が多い**

<ul style="list-style-type: none"> <li>調査書と学力検査による関連図表を用いた選抜方法について、学校・学科の特色に応じた学校の裁量幅の拡大について検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査書と学力検査の総合審査は賛成。</li> <li>総合評価を維持するならば関連図表の見直しは必要。</li> <li>学校裁量幅の拡大は賛成。</li> <li>比重を変える方法、加算する方法がある。</li> <li>受検生に学校が選ばれるという意識をもってほしい。</li> <li>具体的な可能な幅を明示すべきである。</li> <li>学力でない部分を評価することも大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様化の一方でシンプルさも大切。</li> <li>高校の負担が大きくなるのではないか。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>各学校の選抜方針等をあらかじめ公表することを検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>可否の基準を明確に示すことも必要である。</li> <li>明確に示す必要があるならば公表の範囲を示したガイドラインも必要。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>学力検査について、選択問題の有効性を含めその在り方について検討する。</li> </ul>	<p>中学校での学習の成果がためされる基礎的なものでよい。          学力検査におけるリスニングは1回とすべき。          生徒の力をはかれる選抜の材料かどうか大切。</p>	



「中間まとめ」の改善の方向性	主な賛成意見	主な反対意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出願に際しては、志望の動機が確認できるような方法を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己PRできるような志願理由書があるとよい。</li> <li>・出願理由は高校としても知りたい部分である。</li> <li>・意欲を高め、学力向上につながる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・志望理由書は両面性を持ち、思いを伝える面とプレゼンテーション能力とは別な側面。</li> <li>・高校は通過点であり、最終の目標でないので、不要である。</li> <li>・意義は理解できるが、選抜の材料としたときに、中学校の負担が多くなる可能性がある。逆に選抜の材料にしないのであれば意味がない。</li> <li>・中学校の負担が大きくなる。</li> <li>・入試にキャリア教育的なものを入れるのは難しい。</li> <li>・郡部においては学校の選択肢が少なく書きづらい。</li> </ul>
<b>エ 第二次募集について</b> <b>現行制度の継続という意見が多い</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が新たな進路について前向きに考える契機となるような工夫が必要。</li> </ul>	<p>現行のシステムでよい。  前期・後期の学力検査点を選抜材料にすること可能にすると時期を遅らせて実施できる。  定員割れの多い仙北地区では第二次募集は必要。  第二次募集の実施時期は現行よりも少し早いほうがよい。</p>	
<b>オ 調査書について</b> <b>評定の客観性、公平性をより高めるような工夫を求める意見が多い</b> <b>Ⓐ評定については、割合等について改善を求める意見がある</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・5段階評定の客観性、公平性をより高めるよう工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校により評定に違いがあり、より客観的な評価をするべきである。</li> <li>・評価の客観性に課題。県レベルの統一テストの結果を調査書に記載するのも一つの方法か。</li> <li>・5段階より、10段階評定のように細かく評価するのがよい。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツや文化活動等で特に優れた生徒に記載するⒶ評定の意義と改善の方向性、その他の記載項目の見直しの検討が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校外の活動も評価できる仕組みの方がよい。</li> <li>・調査書は客観性が求められる。主観的なものはできるだけ避けた方がよい。</li> <li>・選抜の材料として必要なものという観点で改善を。早期に対応してほしい。</li> <li>・Ⓐ評定は割合がない方が使いやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査書の簡素化には反対。選抜の材料として大切である。より詳細に記載してほしい。</li> <li>・Ⓐ評定も重要視して選抜にあたっている。</li> </ul>
<b>カ その他</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分な周知期間を確保することが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入試は子どもの一生を決める大切なものであり、平成24年春にこだわらず、じっくり検討しても良いのではないか。</li> </ul>	



(3) 意見聴取会における意見発表内容のまとめ

その1(受検機会・推薦入試)

	受検機会について	推薦入試について	募集定員の割合を現行よりも下げ、その範囲内で各高校が適切に定めることを検討する。	各高校・学科ごとに、求める生徒像や出願要件、評価項目や配点などの選抜方法について、可能な範囲であらかじめ公表することを検討する。	選抜方法として、面接・作文のほか学力検査等を加えることも検討する。
仙台市立若切中学校長 菊池隆廣氏	賛成。 試験当日の体調不良という事例もある。ただし、中学校の事務の簡素化にも配慮を。	推薦制度の改善の方向性は賛成。	前期選抜は15%を上回らないように欲しい。		
多賀城高校長 武田雅夫氏	賛成。	「多様化」とはどのような意味で用いているのか。			
仙台市立第一中学校 PTA事務次長 三浦利政氏	受検機会の3回は賛成。	推薦入試は目的意識を持った生徒が高校に入学するというメリットはあるが、課題も多い。不合格者が多くいることも課題。		高校の推薦の基準がどのようなものなのか明確にわからないということも課題である。中学校での推薦基準もわからないところがある。	推薦入試においては、学力の低い生徒も合格するという課題がある。
仙台市立東支線地味本部 スーパーバイザー 山川由紀子氏	受検機会の3回は賛成。	推薦入試は中学校での選抜、人間関係の摩擦に課題。		入試についての情報が不足している。親も自ら進んで情報を得る努力をして欲しい。高校側も積極的に情報を提供して欲しい。	
仙台市立金沢南高 山口哲男氏	受検機会の3回は賛成。				前期試験の面接・作文は不要。 後期試験は、学力検査に加えて、面接が必要。
石巻工業高等学校長 荒瀬幸雄氏		推薦入試の見直しは必要。			
石巻市立住吉中学校 教諭 黒沼俊雄氏		推薦入試導入時の建意と現状にずれがあり、推薦入試は廃止してもよい。		推薦入試の基準、特に成績面において、具体的でない。また、中学校での選考基準も保護者に伝わっていないという課題がある。	推薦入試合格後の学習意欲の低下に課題あり。 面接だけでは受検生のことは理解できないはず。
仙台市立花畑中学校 PTA会長 加藤美穂氏	複数の受験機会を設定することは賛成。 3回から2回に減らすことは理解が得られないかと思う。	推薦入試を残すのであれば、スポーツ・文化面だけに限るようにする。 普通科の推薦入試は廃止してよい		高校・中学校での推薦基準が明確でなく、保護者としては最後まで心配。	
石巻市PTA協議会事務次長 田村百合子氏		推薦入試の際、保護者間の人間関係の摩擦が課題。		現在の制度の中でもすべての中学校の先生が理解している状況とはいえない。できるだけシンプルな制度に。	
大船工業株式会社代表取締役 廣中孝徳氏		普通科においては、推薦導入自体が疑問であり、一般入試だけでよい。		普通科における推薦入試の基準が不明瞭である。専門学科については現状でよいと思う。	
本吉高等学校長 宮崎博夫氏	賛成。		学校裁量幅をもっと大きくしてもよい。	学力検査を課す課さない等、学校裁量幅が大きい方がよい。 現行は抽象的であるが、できるだけ成績等も含めて具体的な表現に、部活動の成績、資格取得等。	学区内の校長のアンケートでは、前期でも学力検査を課したいという意見が多い。
南三陸町立志津川中学校 教諭 小野寺幸博氏	受検機会は3回がよい。 (特色化選抜をする場合)	現行の推薦入試は、学力検査を課していない点に課題。中学校の進路指導主事の多くが2回とっているのは、学力低下の一つの要因となっているという判断。 高校が示している基準が抽象的であり、中学校の基準も具体的なものとはならない。		各高校が示す基準は具体的なものである必要。抽象的なものでは現行の推薦入試の課題と同様になる。	
気仙沼市立南浜中学校 PTA顧問 小野寺清江氏	受検機会は3回がよい(推薦された生徒の場合)。	中学校における推薦基準が明確でない。 職場等の意見は推薦入試はあった方がよいという意見が大半。 推薦入試にはよい部分もあり、徐々に改善していくのがよい。	前期選抜はすべての学科で30%以内とするのがよい。		学力検査を課した方がよい。
本吉町スポーツ少年団指導者協議会長 宮原英徳氏		専門学科はあってもよいが、推薦入試の必要性はない。 元々の推薦入試の趣旨と異なってきている。		各高校の特色が、地域の人々に浸透していない。PRに工夫が必要。	
NPO法人大島好き代役 白鶴昇一氏		現行の推薦入試は廃止して良いのでは。作文、面接の対策が必要で大変。		全県一学区では、より受検生に高校に選ばれることになる。	

	受検機会について	推薦入試について	推薦入試について	その1(受検機会・推薦入試)	
	複数の受検機会を設定する。	受検生の能力等を多面的に評価するという趣旨を生かしつつ、中学校長の推薦などの出願資格や選抜に関して改善を図る。	募集定員の割合を現行よりも下げ、その範囲内で各高校が適切に定めることを検討する。	各高校・学科ごとに、求める生徒像や出願要件、評価項目や配点などの選抜方法について、可能な範囲であらかじめ公表することを検討する。	選抜方法として、面接・作文のほか学力検査等を加えることも検討する。
大崎会場		推薦入試を廃止することに賛成。合格が一つのゴールと捉えてしまう傾向がある。		出願要件を明確に示すことはよい。	面接の評価基準を明確に示してほしい。
		中学校では推薦合格後の指導の難しさが、何らかの手立てが必要である。	割合を低くすると、進学校等で高倍率化の可能性はある。	現在の求める生徒像は抽象的であり、中高の見方に差が出ることに課題。中学生の進路選択が主体的になるよう具体的に示すことが必要。	
	複数の受検機会を設定する。積極的にチャレンジできる。	推薦入試は、受検機会に差があるなど様々な課題がある。推薦入試は楽な制度。		事前に選抜基準を明確にすることは大切。	
		普通科の推薦入試については廃止でよい。専門学科については、目的意識を持っている生徒が、学力がないからということで、入学できることは残念。		出願要件は明確さが求められる。	
		とりえず推薦に出してみようという風潮がある。推薦入試は将来的には廃止でよい。			
	3回の受検機会は賛成。	推薦入試の人数枠の徹底により中学校の裁量部分が大きくなり、現場は大変である。校内選考を厳しくすると受検機会が1回なくなる。また、学校により違いが見られるようになる。		専門学科はよいが、普通科の推薦入試は志望の動機が明確でないの、難しい。高校は多様化しており、高校において育てたい生徒(特色化)を明示して欲しい。	現行の推薦入試は学力検査がないことも課題。早期に決定し、学習意欲が低下する生徒が見られる。
	3回の受検機会の確保に賛成。選抜日程は試案のとおりでよいが、できるだけ遅い方がよい。	推薦入試は廃止し、特色化選抜にするとよい。出願要件は明確に示す。	募集定員の割合は現行より下げることに賛成。	実施した選抜方法を全て点数化するとよい。欠席10日以内、評定4.0、ベスト8など具体的に示す。中学生が主体的に選択できるようにする。	学力検査を課した方がよい。県教委でも作題するが、学校独自問題も可能とするのがよい。3教科でなく、一日で終わるように40分の5教科ということもあるのでは。
大河原会場		校長推薦による推薦入試は不合格者がでるのが不思議。推薦入試は、入試制度が悪いのか、運用上の問題なのか。	割合を低くすると、高倍率が予想される。		
	受検機会を複数確保することに賛成。保護者も納得するはず。	校長推薦については課題あり。廃止することに賛成。実質一回で、複数回になっていないのでは。	前期選抜の高倍率化が課題。前期選抜の割合は40~50%ぐらいにすべき。		学力検査を課すことには賛成。
	3回の受検機会は賛成。		20%は少ないのではないかと。高倍率化の可能性はある。上限は上げた方がよい。	各高校の特色ある学校づくり、社会的役割の分を必要とする必要がある。	

意見聴取会における意見発表内容のまとめ

その2(一般入試)

		一般入試について			
		調査書と学力検査による 相関図表を用いた選抜方法 について、学校・学科の 特色に応じた学校の裁量 幅の拡大について検討す る。	各学校の選抜方針等をあ らかじめ公表することを検 討する。	学力検査について、選択 問題の有効性を含めその 在り方について検討する。	出願に際しては、志望の 動機が確認できるような方 法を検討する。
仙台会場	仙台市立岩切 中学校長 菊池登成氏	調査書と学力検査の総合 審査は賛成。			志望理由は両面性を もっている。思いを伝える 面とプレゼンテーション能 力等の別な側面。
	多賀城高校長 武田和夫氏	総合評価を維持するなら ば、相関図表の見直しは 必要。 学校裁量幅の拡大は賛 成。比重を変える方法、加 算する方法もあり。			
	仙台市立第一中学校 PTA事務次長 三浦利敏氏	学校裁量幅の拡大は賛 成。			
	仙台市学校支援地域 本部 スーパーバイザー 山川由紀子氏				賛成。 自己PRできるような志願 理由書があるとよい。
	仙台商工会議所議員 山口哲男氏	学校裁量幅の拡大は賛 成。 高校は受験生に選ばれる という意識をもって欲しい。		中学校での学習の成果が 試される基礎的なものでよ い。	志望理由は、表現力な ど別な観点となり、使い方 は慎重であるべき。 高校は通過点であり、最 終の目標でないので不要 と考える。
石巻会場	石巻工業高等学校長 渡邊幸雄氏	学校裁量幅の拡大は賛 成。ただし、具体的に可能 な幅を明示すべき。また、 多様化の一方でシンプル さも大切。		学力検査におけるリスニン グは1回とすべき。	志望動機の記入は意義は 理解できるが、選抜の材 料とすると中学校の苦勞 が多くなるし、しないので あれば意味が分からなくな る。
	石巻市立住吉中 学校・教諭 熊沼俊博氏				志望の動機を書くことにな れば、中学校の教員の指 導が必要になる。負担にな らない程度であれば、書か せることは重要である。
	登米市立陸田中学校 PTA会長 加藤義雄氏				
	石巻市PTA協議会事 務次長 田村百合子氏				
	大幸工業株式会社代 表取締役 廣中孝治氏				
南三陸会場	本吉養護高等学校長 高橋市夫氏				志願理由は、中学校の 負担が大きいだらう。
	南三陸町立志津川中 学校・教諭 小野寺孝博氏				出願時であっても検査当 日であっても、中学校では 指導する。すべての生徒 が対象となるので、負担は 増えるはず。
	荒船沼市立面瀬中 学校PTA顧問 小野寺孝江氏				
	本吉町スポーツ少年 団指導者協議会長 菅原英俊氏				
	NPO法人大島大好 き代表 白崎昇一氏				

		一般入試について			
		調査書と学力検査による 相関図表を用いた選抜方法 について、学校・学科の 特色に応じた学校の裁量 幅の拡大について検討す る。	各学校の選抜方針等をあ らかじめ公表することを検 討する。	学力検査について、選択 問題の有効性を含めその 在り方について検討する。	出願に際しては、志望の 動機が確認できるような方 法を検討する。
大河原 会場	栗原市立金成中学校 長 高橋憲夫氏			一般入試の改善の方向性 は妥当である。	
	吉川高等学校・教諭 加賀谷元氏	調査書はすべての項目を 活用している。 学校の裁量幅の拡大はよ い。生徒が主体的に選択 することでできるよくなる。 調査書は入学後も活用し ている。	明示するとすれば、公表の 範囲について示したガイド ラインが必要。	学校選択問題は機能して いる。	出願理由については高校 としては知りたい部分であ る。
	大崎市PTA連絡協議 会長 茶屋貴一氏				
	雄城若者サポートス テーション みやぎ北若者サポ ートステーション 長崎義範氏	学力で測れないところを評 価することは大切である。 学校裁量幅をもたせること もよい。			志望理由書の評価のポイ ントはどうなるのか。 入試にキャリア教育的な ものを入れるのは難しい。
	産業経営者 石川和彦氏				
	柴田町立船岡中学校 長 伊藤誠氏	調査書、学力検査による 総合的な審査はよい。 学校裁量幅の拡大はよい が、明示して欲しい。			志望動機を書くことが可 能な生徒と難しい生徒が いる。
	角田高等学校・教諭 大坪隆久氏	相関図表は学校によって 使いづらいので、加算方式 もよいのでは。 学校裁量は認めた方がよ い。			志望の動機は中学校の指 導が大変だと思う。 前期選抜の志望理由書は 必要だが、後期選抜では 選抜の材料とはできない。 入学後に自己PRカードな どを書かせている。
大河原 会場	大河原町立大河原中 学校PTA会長 佐藤圭一氏				那部においては学校の選 択肢が少ないので、志願 の動機は書きづらい。
宮城野社会教育協会 大河原支部長 高橋久氏	学校裁量幅をもたせても 良いのではないか。 学校にある程度任せること が必要。				
白石市子供会育成会 連合会長 徳力弘正氏					志望理由書を記述させる ことはよい。 意欲を高め、学力向上に つながるのでないか。 後期選抜では当日の作文 として書かせてはどうか。

意見聴取会における意見発表内容のまとめ

その3(第二次募集・調査書・その他)

	第二次募集について	調査書について	その他
	生徒が新たな進路について前向きに考える契機となるような工夫が必要。	5段階評定の客観性、公平性をより高めるよう工夫する。	スポーツや文化活動等で特に優れた生徒に記載するA評定の意義と改善の方向性、その他の記載項目の見直しの検討が必要。
仙台市立岩切中学校長 菊池隆雄氏	現行のシステムでよい。		
多賀城高校校長 栗田和夫氏	前期・後期の学力検査点を選抜資料にすることを可能にすると、時期をもう少し遅らせてもできる可能性も。	中学校から提出される調査書を信頼して選抜している。絶対評価の客観性、公平性に課題ありとあり、びくりにしている。	調査書の簡素化には反対。選抜の材料として大切。詳細に記載して欲しい。A評定も重要視して選抜している。
仙台市立第一中学校 PTA事務次長 三浦利敬氏			
仙台市学校支援地域本部 スーパーバイザー 山川由紀子氏			校外の活動も評価できる仕組みの方がよい。
仙台商工会議所協賛員 山口隆男氏			調査書は客観性が保てるものはよいが、主観が入ったものはできるだけ少くの方がよい。
石巻工業高等学校校長 渡邊幸雄氏	第二次募集は必要である。		
石巻市立住吉中学校 教諭 黒沼俊郎氏		中学校により評価の仕方に違いがあり、より、客観的な評価をすべき。	中学校では、生徒のよさを思いこめて記載している。高校側でもしっかり受け止める調査書の在り方を求める
石巻会場 釜淵市立佐沼中学校 PTA会長 加藤隆雄氏	定員割れの多い仙北地区は、第二次募集が必要。		
石巻市PTA協議会事務次長 田村百合子氏	第二次募集は必要である。		人が人を評価することは難しいと感じる。
大常工業株式会社代表取締役 廣中幸彦氏			
本吉宮高等学校校長 高橋伸夫氏		絶対評価による評定は、中学校間でも違い、公平性の確保に心配。	
南三陸町立志津川中学校 教諭 小野寺幸博氏		絶対評価による評定は、中学校間でも違い、公平性の確保に心配。	選抜の資料として必要なものという観点で改善を。
南三陸会場 気仙沼市立西園湖中学校 PTA顧問 小野寺清江氏	第二次募集の実施時期はもう少し早いほうがよい。		
本吉町スポーツ少年団指導者協議会会長 宮原英俊氏			
NPO法人大島大好き代表 白崎芳一氏			

意見聴取会における意見発表内容のまとめ

その3(第二次募集・調査書・その他)

	第二次募集について	調査書について	その他	
	生徒が新たな進路について前向きに考える契機となるような工夫が必要。	5段階評定の客観性、公平性をより高めるよう工夫する。	スポーツや文化活動等で特に優れた生徒に記載するA評定の意義と改善の方向性、その他の記載項目の見直しの検討が必要。	
大崎会場	栗原市立金成中学校 校長 高橋憲夫氏	5段階評定より細かく評価できるようになるとよいと思う。	A評定の割合がないと使いにくい。ランク付けをすることも考えられる。記載事項のすべてが必要かどうかは不明だが、子どものよさをすべてに記載している。	
	古川高等学校・教諭 加賀谷亮氏	中学校からの評定は信頼している。	記載するスペースなどはバランスをとる必要がある。	
	大崎市PTA連絡協議会 会長 栗原賢一氏		複数の先生による人物評価となるとよい。	
	地味道者サポート ステーション みやぎ北若者サポ ートステーション 長岡 義昭氏			
	農業経営者 石川 和彦氏			
大河原会場	柴田町立船岡中学校 校長 伊藤 誠氏	第二次募集は必要である。	合格を願いながら複数の目で作成している。どの項目が選抜に利用されているのかが分からない。活用の仕方を示してほしい。評価しにくい項目は簡略化してもよいのではないかと。	
	角田高等学校・教諭 大坪 泰久氏		調査書は簡略化してよい。	
	大河原町立大河原中学校PTA会長 佐藤 圭一氏	評定は中学校に違いがあり、公平性に疑問。共通テストなどがあると良い。	A評定は割合があることが問題。	入試は子どもの一生を決めるような大切なことであるので、平成24年春からこだわらず、じっくり検討しても良いのでは。
	宮城県社会教育協会 大河原支部長 高橋 久氏	第二次募集は必要である。		
	白石市子供会南成会 連合会長 髙力 弘正氏			



意見聴取会における意見発表内容のまとめ

その4(試案・その他)

	改善試案				その他
	試案A	試案B	試案C	試案D	
仙台区 仙台市立岩切中学校長 菊池義廣氏	普通科の推薦入試の廃止は賛成。	賛成。 普通科の推薦入試の廃止は賛成。 専門学科の推薦入試は残すのに賛成。	普通科の推薦入試の廃止は賛成。		高校入試で大切な観点は、「人材育成」と「自己肯定力」という二つの観点。
	賛成。 ただし、学力検査問題の作成及び前期選抜の検査問題、志願理由書、志望動機の明確化が具体的なものとして見えない点が課題。			実施困難か。 前期選抜の割合が、ほとんどの高校において90%となり、実質受検機会は1回に、輪切りに。定員割れの学校が増える心配も。第二次募集が必要。実施時期の検討が必要。	進路達成のための様々な取組。中学校訪問、オープンスクール等の実施。 それぞれの入試の目的、方法、どう生徒を育成するのが今後の課題。
	出願要件に合致したものが希望するというのは納得。	出願要件に合致したものが希望するというのは納得。	出願要件に合致したものが希望するというのは納得。		
	仙台市学校支援地域本部 スーパーバイザー 山川由紀子氏			賛成。 特色化選抜でも学力検査は必要。	入試改善という大切なことであり、県民の方に関心をもっともって欲しい。
仙台商工会議所議員 山口哲男氏				改善するのであれば賛成。	中学生活で、いろいろなことをして、受験に向かってほしい。受験だけ、勉強だけで3年間を過ごす中学時代でないことを願う。
石巻市 石巻工業高等学校長 渡邊幸雄氏	前期選抜で少数をとるのであれば、後期選抜でも合格するはず。			賛成。 定員割れをする学校のことも考え、第二次募集もすべき。日程については前・後期の間を2〜3週間程度あけるなどの検討が必要。後期の定員が少ないので、学力検査に加えて面接などの特色を評価する選抜も可能。	メリット・デメリットを示しながら最終案を示すべき。 高校の取組を積極的に提供することは必要。 理念とコスト(作間、事務量等)のバランスが必要。
	※試案A〜試案Dについて、それぞれに課題があり、どれが良いとはいえない。	「高校が示した基準に合致する」はイメージがわかないので、とまどいがある。 多忙化の心配。	「高校が示した基準に合致する」はイメージがわかないので、とまどいがある。	授業を進める上ではよいが、スケジュールは厳しい。	事務量の軽減を。 中学校での努力、子どもたちの見さが反映される入試システムを。 新制度になった場合には、保護者、職員間での周知・徹底も大切。
		将来的に受検機会を2回にするのであれば、段階的にB案からD案に移行するのがよい。		将来的に受検機会を2回にするのであれば、段階的にB案からD案に移行するのがよい。	
石巻市立佐沼中学校 PTA会長 加藤義憲氏					
石巻市PTA協議会 事務次長 田村百合子氏	※普通科においては、推薦入試を廃止し、一般試験と第二次募集だけとする。				様々な方法をとることで、謝った情報が流れやすくなる。 スタートラインをそろえてあげたい。 厳しい社会に出るための入試であった方がよい。
大幸工業株式会社 代表取締役 廣中孝彦氏	※入試改善において、すべてを丸くおさめるのは難しい。対象(中学校、高校、生徒等)をしぼる必要があると考える。			D案に賛成。 専門学科については、推薦入試を残しても良い。	普通科は大学に進学させて欲しい。 石巻では共学化により女子の選択幅は広がったが、男子は狭くなったのでは。地元高校に進学したいと思わせる特色ある学校づくりを。 地域における学校の役割分担を、地元の経済界と専門高校との結びつきを強めていきたい。
本吉町立高等学校長 高橋郁夫氏	A案に賛成。 前期選抜の二月初旬は学年末考査と重なることが課題。 また、学力向上の観点から後期選抜、第二次募集は遅くしてもよい。			受検機会が一回少なくなる点、学習面と部活動等バランスをとるといって問題が大きい。	目的意識を持ち入学してきた生徒は、模範的な学校生活を送る生徒が多い。
南三陸町立志津川中学校 教諭 小野寺幸博氏		現行の推薦入試の課題がクリアできていないことが問題。	C案に賛成。 県の課題としての「学力向上」を踏まえた場合、すべての受検生に学力検査を課すのがよい。	A案〜C案で学力検査を課すのであれば、受検機会が一回少ない点が問題。	
気仙沼市立面瀬中学校 PTA顧問 小野寺清江氏			C案をベースにして、特色化選抜でなく、推薦入試を継続実施。		一般入試は、将来の希望が明確でない生徒にとってはよい制度である。
本吉町スポーツ少年団 指導者協議会長 菅原英俊氏			C案がよい。	D案は、2回に分ける理由が分からない。	20年間の指導で、生徒に変化あり。指示待ちが多い。人間として育てる必要があり。中学校でも高校卒業後を見据えた進路指導を。 全県一学区、中高一貫と入試改善との関係は？
NPO法人大島大好き代表 白幡昇一氏	※A案〜D案について、どれが望ましいか言えない。				高校入試のハードルを下げて、卒業のハードルをあげ、高校3年間勉強させる仕組みにすべき。 今の子どもはニュー日本人。生きる知恵を身に付けることが大切。

意見聴取会における意見発表内容のまとめ

その4(試案・その他)

	改善試案				その他	
	試案A	試案B	試案C	試案D		
大崎会場	栗原市立金成中学校長 高橋憲夫氏		C案に賛成。 出願要件を明確に募集要項に示すことに賛成。 一般入試の時期が前倒しになってきている状況があるので、できるだけ遅くお願いしたい。 学力検査を課さない科目についての評価をどうするのか課題。 目的意識をもたせたい。		進路が決まっていない生徒が多く、専門学科よりも普通科を選択する可能性が大きい。 中高を円滑に繋ぐことについては賛同する。義務教育を受けて高校で何をするか明確にすることはよい。 学校の特徴を明確に打ち出すことは大切である。 高校において中途退学の希望が出た場合、中学校とも連携をとれればと考えている。	
	古川高等学校・教諭 加賀谷亮氏		※B案かC案がよい。	※B案かC案がよい。	D案は現実的ではない。	全県一学区対応で先生方の意識に変化。 高校の特徴を明確にし、高校の魅力を発信することが大切。 学校便り、HP等で情報を発信している。
	大崎市PTA連絡協議会長 斎岸賢一氏		※B案かC案がよい。 目的意識をもっている生徒に入学の場を与えるのはよい。	※B案かC案がよい。		時代の変化に伴い、生徒は多様である。 高校はさらに特色ある学校づくりを進めるとよい。 思考力、問題解決力、表現力なども幅広く評価できるようなシステムを。
	地域若者サポートステーション みやぎ北若者サポートステーション 馬場義竜氏					社会が変化しており、仕事が細分化されて仕事を選びづらいつかめない人が多い。 働くことの意味等について学校教育の中で学ばせて欲しい。 カリキュラムで学校の特徴は出せないか。
	農業経営者 石川和彦氏		※B案かC案がよい。 目的意識があっても推薦入試で入学しなくともよい。最終的にいければよい。	※B案かC案がよい。 段階的に推薦入試を廃止するとよい		苗作りと子育ては同じ。過保護にするがダメである。 子どもは体験入学で志望校を決定した。
大河原会場	柴田町立船岡中学校長 伊藤誠氏				全ての生徒が2回の受検機会のあるD案をベースに改善すると良い。 B案の専門学科の推薦入試を加え、第二次募集も加える形。 前期選抜の割合は最大50%に。	
	角田高等学校・教諭 大坪泰久氏	賛成。 全ての学校で学力検査を課さなくともよい。			D案は前期選抜で50%以上が決まるという点で、高校入試としては大変である。	中学生にはもっと勉強して入学してきて欲しい。 改善の方向性は賛成。
	大河原町立大河原中学校PTA会長 佐藤圭一氏	※どれがよいとは言えない。 一つの案にまとめて提示してもらえるとよかった。				疑問点として、 ・4つの試案で全ての課題に解決できているか。 ・4つの試案の中で一番良いと思われるのはどれか。 ・4つの試案のリスクは検証されているか。 ・中学校、高校の先生の意見は入っているか。 全県一学区になっても地元中心に進学先を考える。
	宮城県社会教育協会大河原支部長 高橋久氏	※2月初旬は早いのではないかと。実施時期は遅い方がよい。			D案に第二次募集を加えるのがよい。 ただし、日程上の問題はあ	改善の方向性は妥当である。
白石市子供会育成会連合会長 徳力弘正氏		B案に賛成。 前期選抜の募集定員の割合は増やした方がよい。		D案には賛成しない。 前期の割合が大きいと入学後の生徒の意識に違いが生じるのではないかと。	表現として、「前期選抜で合格しない者」より「前期選抜で合格した者をぞく」の方が良いのではないかと。 自分の幸せだけを望む人が増えており、単に学力だけでなく、協調性、助け合いの心を育てるなどの視点も大切な社会になっている。 学校教育の使命は、人間を育てることである。	

## (4) 意見聴取会での傍聴者からの主な意見要旨のまとめ

傍聴者の主な発言 下線は複数の方の意見

### 受検機会

- ・後期日程でなら合格する子が、無理に前期を受けて落とされて泣く。3回ではなく2回がよい。
- ・チャンスの拡大といっても、勉強が苦手な経済的にも大変な子たちが2回やろうと3回やろうとどこにも受からないことが問題である。
- ・3回の受検機会の確保は賛成だが、子供のよさをさまざまな尺度で見してほしい。
- ・一般入試と第二次募集に追査を加えて3回とする。

### 推薦入試

- ・推薦制度の廃止に賛成。
- ・推薦入試でショックを受けた子や問題が起きた例は、我々中学校現場の教師はたくさん持っている。
- ・専門学科に関しては推薦制度をそのまま継続してよい。

### 一般入試

- ・志願理由書も自分でアピールした方がいいというのはわかるが、その指導をしなければならないことになるとどうか。その場で本人が何か書いて、それを使って面接の材料にする程度のものでないが、書類審査でいろいろな吟味をしようという方向性は公平性にも欠ける。

### 調査書

- ・推薦書とか調査書など教師の作文力で差がついたら困る。
- ・内申制度が重要視されているこの宮城県の制度はよくないと思う。
- ・①評定は選抜の資料として活用されている一方で、中学校ではその選考に苦慮している。

### 4つの試案

- ・和歌山県では2年前に特色化選抜を入れたが、2年後に廃止、その実態を研究してほしい。
- ・学力検査の実施を、3教科と5教科の試験とする問題をもう少し検討してほしい。
- ・一学区化に向けて、特色ある学校づくりということが命題になっているが、そのために選抜で特色化することはどのようなことなのか。
- ・普通科の特色を示すのは難しいのではないか。
- ・示された出願要件に無理に近づけようと努力する生徒が生まれるのではないか。
- ・旧学区に戻して、試案Dを細かく再検討していくというのがよい。
- ・現行の一般入試は調査書、学力点も含めて、子供たちのよさを多面的に見ている。現行の入試制度をさらに保護者に説明した上で進めるのがよい。
- ・4つの試案では、高校が示す基準というのは一体何なのか全く見当がつかない。
- ・秋田県は3倍で足切りをする制度を設けているが、調査書のみで不合格にされるという問題もある。
- ・高倍率になった場合、きめ細かく子供を評価して合格、不合格を明瞭に出せるのか疑問。
- ・各学校ごとに裁量幅を認める割合、制度が複雑になる、シンプルな入試制度にすることが大切。
- ・前期選抜の募集定員の割合を低くすると、落ちる生徒が多くなり問題がある。

### その他

- ・全県一学区になり、仙台で学力が高くない子たちは次々と仙台周辺に流れることも予想される。
- ・全県一学区導入の結果をみて、入試制度改善の結論を出すべきでないか。
- ・高校に入ることが最終目的ではない。その子にとってちょうどよいレベルの学校に入ることがよい。
- ・宮城県の高校の全体像をだれがどこでどのように審議しているのかを明確にしてほしい。
- ・意見聴取会があることをしっかり知らせるべきである。
- ・意見聴取会もっと回数を増やしてほしい。
- ・意見の発表者も公募してほしい。
- ・広報活動にもしっかり取り組んでほしい。
- ・高校は地域の学校という立場であるべきだと思う。
- ・仙台で意見聴取会をもう一度行ってほしい。
- ・子供たちがこの制度をどう考えているか、生の声を聞く場を設けてほしい。

意見記入用紙の主な記載事項 下線は複数の方の意見

### 受検機会

- ・複数の受験機会の確保を。
- ・入試事務の軽減を。
- ・複数の受験機会は不合格の生徒を生み出すだけである。

- ・追考査を実施し受検機会を複数にする。

#### 推薦入試

- ・現行の推薦制度は廃止に賛成。
- ・推薦入試で合格する生徒は、一般入試でも合格する生徒である。
- ・現行の推薦入試では、多様な選抜尺度を用いるとありながら、現実には内申点で選抜されている。
- ・現行の推薦入試は基準が抽象的であり、評定平均値など具体的なものを示して欲しい。
- ・募集定員に対する割合は下げて、推薦制度は残して欲しい。様々な子どもの良い面をみて欲しい。

#### 一般入試

- ・志望動機は中学校での日常の進路指導の中で行うべきもの、選抜には不要である。

#### 第二次募集

- ・一般入試と二回の第二次募集がよい。

#### 調査書

- ・中学校間の差が大きく、選抜における調査書のウェートを小さく。
- ・現行の調査書の活用では、3年で急にがんばった生徒を評価するのが困難。
- ・絶対評価による評定であり、選抜資料としての公平さに課題がある。
- ・選抜の資料として本当に必要な項目だけにして欲しい。

#### 4つの試案

- ・一般入試と第二次募集の2回の受検機会だけでよい。
- ・普通科、理数・英語科は一般入試と第二次募集だけにして、専門学科の推薦入試は継続する。
- ・一般入試の際に多様な選抜尺度で選抜するのがよい。
- ・特色化選抜で普通科の特色を明確に具体的に示せるか。
- ・全県一学区もとの特色化選抜は特定校において高倍率が予想される。
- ・事前に共通学力検査を実施し、各高校が入学資格者の点数幅を示し、希望する高校に全員合格できる仕組みを。
- ・前期選抜で定員の5割を合格させると多くの心を痛める不合格者がいるということになり、逆に学力低下につながるのではないか。
- ・D案に第二次募集を加えた制度がよい。
- ・前期選抜の定員が少ないと、学校間格差が拡大することにつながる。
- ・他県の状況も確かめて欲しい。
- ・D案は私学との関係も大きい。
- ・D案は卒業式との関係など日程上の問題がある。
- ・シンプルな入試制度を。
- ・誰もが選抜結果に納得できるわかりやすい入試がよい。
- ・A案に賛成。
- ・C案に賛成。
- ・学力検査は全員に課すべき。

#### その他

- ・意見発表者は公募すべきである。
- ・もっと意見発表会の広報活動をすべきである。
- ・仙台会場はもう一度やってもよいのでは。
- ・登米。栗原でも開催して欲しい。
- ・より一般の県民がみてわかりやすい資料の提示を工夫して欲しい。
- ・現場の声をもっと反映させて欲しい。
- ・各高校の募集定員についても考えて欲しい。
- ・傍聴者の意見発表時間をもっと増やすべきである。
- ・全県一学区という大きな変化の中で、入試制度を変えるのかと驚いている。
- ・意見を述べる傍聴者も、所定時間内に、感情的にならず、論理的に自分の意見を述べる必要がある。
- ・傍聴者の中に傍聴のマナーを守らない人もいて、不快である。
- ・特色化づくりは不要、普通の学校でよい。
- ・全県一学区、男女共学化など大きな改革の周知をさらに取り組んで欲しい。
- ・全ての子どもに高校教育を保障すべき。
- ・高校選択でキャリアを学ぶ、学校の特色を示してほしい。
- ・今回の改革が、進学塾が高校受検の主導権を握ってしまうのではないかと危惧している。
- ・私学との共存も視野に入れて欲しい。
- ・高校進学は社会への通過点であり、高校進学で人生が決定されることのないようにして欲しい。
- ・特別支援を受けている子どもたちの入試の在り方も検討して欲しい。
- ・改善の結果を早めに周知して欲しい。
- ・労働の意義なども学校教育の中で取り扱うのに賛成。